

この解説書では wncomr に標準添付している TPL Editor(標準版)と Professional 版の違いのみ紹介しています。



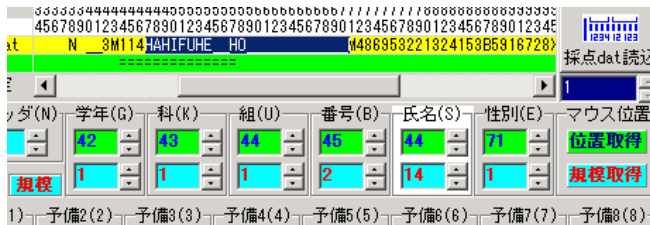
TPL Editor を起動すると左図のような画面が出現します。新規の状態では SDG 標準の状態になっています。

TPL Editor で TPL を作成する前にすでに ScanTools から出力したデータがないと作成は非常に面倒です。

各データの位置を指定する前に採点 dat 読みボタンをクリックして ScanTools から出力したファイルを先頭から 5 行目までを取り込みます。

標準版と異なり Professional 版では 5 行分取り込むことができます。また採点 dat 読みボタンの下にある数値は現在表示している行を示しており、その右にある上下ボタンで表示行を変更できます（5 行に満たない場合は読み込めた行まで）。

標準版と異なり範囲指定で位置と規模を得ることができます。以下は氏名グループの位置枠を先にクリックしてカーソルを移動し（選択グループは白色になる）、採点 dat 1 行目にある氏名をマウスで範囲指定した状態です（必ず先にグループを選択してください）。



範囲指定が終わったらマウス位置グループにある位置取得と規模取得をクリックします。

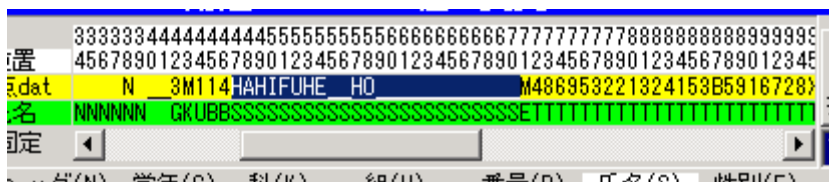
それぞれをクリックすると氏名グループの位置と



規模に数値が取り込まれます。

その他の学年・科・組・番号・性別・問を同じように選択し設定してください。

設定情報をすべて表示し設定を変更する方法が追加されています。全ボタンをクリックするとすべての位置と規模がみられます（単ボタンは標準版と同等になります）。



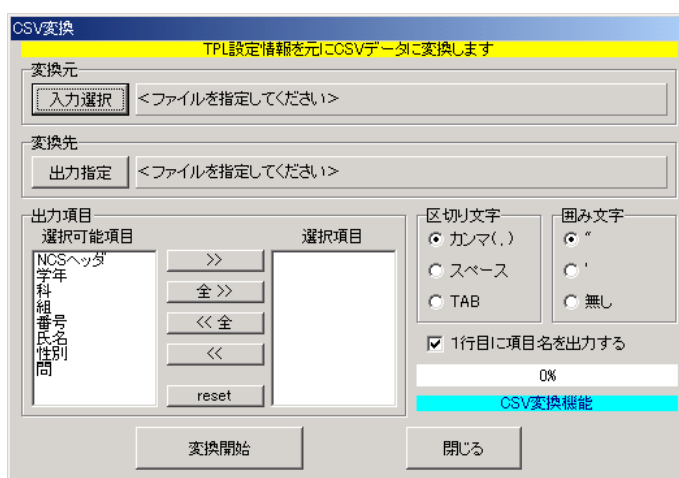
全ボタンをクリックした状態では各文字はグループ名の()内の文字に当てはめています。たとえば、氏名グループは 氏名(S)となっているので S となり、学年(G)は G、科(K)は K のようになります。



全ボタンが押されている状態で、予備 1 ～予備 8 までを指定する場合に画面上にその位置を表示するには、□使用の□にチェックを入れてください。そうしないと画面上に出現しません（このチェックは次の項目 CSV 変換の変換対象にも影響します）。

TPL 情報をすべて決定したら一度保存してください。

ここで作成できる TPL は wncmr で使用することができます。この機能については標準版でも同等のものを作成できますが、Professional 版ではこれに加えて CSV に直接変換できる機能を持っています。CSV コンバータボタンをクリックしてください。



TPL 情報を元に変換しますので、CSV コンバータ機能を使用する前に位置や規模を正確に設定しておく必要があります。

また、予備も対象にする場合は使用するにチェックを入れていないと選択可能項目に含まれなくなります。

まず、入力選択ボタンをクリックして ScanTools から出力されたマークシートデータを選びます。次に出力指定ボタンをクリックしてファイル名と保存するフォルダを決めます。次に、出力する項目を選択します。例えば組・氏名・間をこの順番で出力するには選択可能項目の組をクリックし >> ボタンをクリックします。すると選択項目に組が出現します。次に氏名をクリックし >> ボタンをクリック、最後に間をクリックし >> ボタンをクリックします。区切り文字や囲み文字は通常変更する必要はありませんが、ご使用の表計算やデータベースにあわせて変更してください(1-2-3 や Excel ではこのままで OK)。

1 行目に項目名を出力する のチェックもご使用のソフトウェアにあわせて変更してください（データベースによっては 1 行目が項目名だと不具合が発生する）。

変更開始ボタンをクリックすると変換を開始します。

なお、選択項目に選択名があらわれますが上から順番に右に出力しますので出力の順番を変更したい場合はこの順番を入れ替えてください。例えば間・組・氏名の順に出力したい場合は、一番先に間をクリックし >> ボタンをクリックというふうになります。<< ボタンは選択を解除するときにクリックします。また、全 >> はすべて選択、<< 全はすべて解除、reset は選択可能項目と選択項目を初期状態にします。

注)2002 年の内容を再調整しているため画面が実際と異なる部分があります